

# 関西民放クラブだより

## 定例懇話会の話

永元嘉一 (YTV)

関西民放クラブでは、年に数回定例懇話会として、各方面の方々のお話を聞く催しを行っています。今回は、京都大学、生存圏研究所、矢野浩之教授の「木から自動車を作る」でした。自己紹介から始まり、セルロースナノファイバー(CNF)の説明です。

日本では、毎年1500万トンの杉や檜が成長しています。この資源を有効活用できないかが研究の始まりでした。

木材の構造をナノレベルまで分解しますとナノファイバーになります。まず楽器の研究を始めました。バイオリン、ギター、ピアノすべての楽器は木材でできています。楽器を調べてみますと良い楽器に使用されている素材は、すべてドイツトウヒ材です。その理由は、固く変形しにくいことでした。

この木の構造を細かく調べますと、基本骨格は、直径10ナノメートルのファイバーになります。この太さを例えれば髪の毛一本を輪切りにして、京都盆地の大きさまで

大した時、四条河原町の交差点に一メートルの円柱を見立てたものとなります。

CNFの諸元は調べると、鋼鉄の五倍の強さで重量は五分の一で、この強くて軽い素材を、うまく利用できないか研究が始まりました。CNFはそのままでは利用できません。何かと合わせて使えるものにする必要があります。

◎ 熱膨張がすくなく強度を保てるので、ゴム↓タイヤ、シューズ

◎ コーティング  
紙↓ガスを通さないパッキング  
グパッケージ  
◎ 形状を長く保てる  
ソフトクリーム、ナタデココ

◎ 硬度があり軽い  
自動車、建築素材として、  
利点 軽量化・燃費が良くなる。  
欠点 高温に耐えられない・製造コストが高い。

以上、木材の利点を生かしボンネット、ドア、インパネ、床材、タイヤに使った試作車を東京モーターショーに出展しました。(下の写真)

21世紀は石油から植物依存へ。地球温暖化対策、地産地消に役立つことが我々の理想です。



「木からできた未来の車」NCV (矢野浩之教授撮影)

「木からできた未来の車」NCV  
デザインコンセプト  
車内  
フロントグリル：江戸切子  
ハンドルカバー：刀の束  
シート：白むく  
エンブレム：蒔絵など  
外観 円空木造の仏像一刀彫をイメージし子供たちに夢を与えるランボルギーニのようなガルウィング  
ボディカラーはサクラ色。総合デザインは、レーシングカーやスーパーカーのメーカー(株)童夢に依頼

## 英語クラブ

角田 温美(OBC)

「我流の Japanese English でも OK! 兎に角、臆せずしゃべってみましょう」と Mr. 大河内(元 MBS ニューヨーク支局長)のユ

ーモアたつぷりのリーダーぶりが楽しい2時間です。

内容は Free talk / Today's news / Reading の二本立て。

言葉は生き物。時の流れと共に変化していきます。たとえば、「BREXIT」。EUからの英国脱退を意味する造語です。又、今回のラグビー・ワールドカップで、日本チームの胸に刻まれた言葉

「You know you are ready」(やるべきことはわかっているだろう)、「Go for it!!」(がんばれ!)も。新聞を読む楽しさも倍増します。現実に添ったやさしい英語を目標にワイワイやっています。

一昨年、関西民放クラブ創立30周年記念パーティーでは、クラブソング「いきいき夢を」を英訳し、メンバー達の合唱で披露させていただきました。今、取り組んでいるのは古典落語の英訳版をつくること。

三代目三遊亭金馬で有名な「目黒のサンマ」に挑戦していますが、大苦戦です。そして来たる2025年大阪万博では、シニア・ボランティアとして何らかの形で参加できないものかとも考えているところです。